

大宮地域一斉合同美化作業

ありがとうございました

総勢70数名の人たちによって、印賀川土手、八幡山の草刈り、秋原峠のあじさいの手入れ、聖滝までの散策道、地域振興センター周辺、グラウンドの草刈りなどの美化作業が実施されました。

印賀川土手、グラウンドは、(株)ファームイングの若者たちによってモアという草刈り機(乗用)で事前に刈り取られていました。土手は、刈れなかった部分を、校庭はフェンス沿いを刈り払い機で刈りました。例年に比べて、楽になりました。

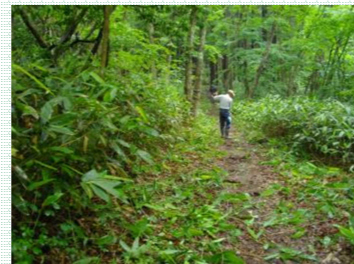
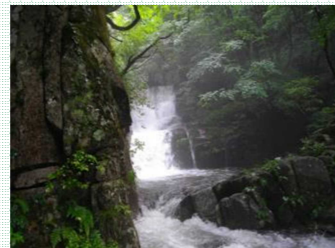
八幡山も聖滝も遊歩道はすっかりきれいになり、観光に訪れる人々が喜んでくれることでしょう。

写真の「秋原峠のあじさい」もすっかり手入れされ、いい花が咲いてくれました。道行く人たちの心が「ほっと」する場所ではないかと思えます。

このたびの合同美化作業ありがとうございました。

もっともっと素晴らしい環境になるよう、自分にできることは積極的に行ってほしいものです。

「大宮はいいところですね。」と他地域の人たちから声をいただく里山大宮をめざしましょう。



《お問合せ》

大宮地域振興センター



〒689-5531
鳥取県日野郡日南町印賀 1516
TEL・FAX (0859)87-0911

Mail: skn0400@town.nichinan.tottori.jp
satoyamaoomiya@sea.chukai.ne.jp
blog: <http://blog.zige.jp/satoyamaoomiya/>
“じげプロ”よりお入りください

編集・発行: 大宮まちづくり協議会 総務部

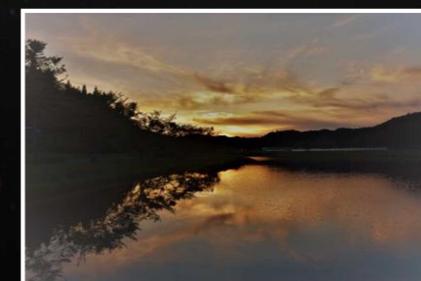
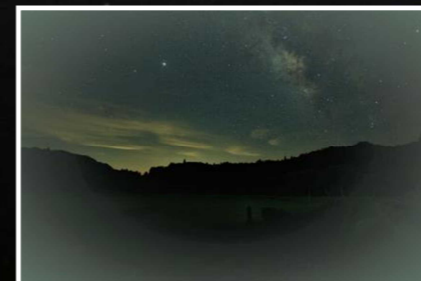
【編集デスク】

◆苦渋の選択ではありましたが、「大宮里山まつり」「大宮十五夜」については、ウイルス感染拡大防止のため中止としました。◆総務学習部では、まちづくり協議会の組織改編に伴い、事業の見直しをみなさんで考えていただくためにアンケート調査を計画しています。その際には、ご協力ください。◆このたびの豪雨で被災されたみなさまならびにご家族のみなさまには心よりお見舞い申し上げます。(青)

No.78

ふるさとだより

おおみや



星降る里山大宮。前号でお伝えしたように、水田に水が引かれ、苗が大きく成長するまでは、まさに湖のようです。天気がよく、雲のない、澄み切った空には、夏の星たちが降り注いでくれます。表紙の写真では、うまく印刷できていませんが、元の写真には、空から降った星たちが、地上に降りてきたように、水田にきれいに写っています。私たちのふるさと大宮の自慢であり、誇りだと思いませんか。こんなところは、全国でも少ないと思いますが……。この星空を活用した、イベントも計画したいと考えています。

この写真は、河村達也さんから提供いただきました。

大宮炭神戸へ初荷

コーヒー豆老舗と契約

日南の同好会



たたら製鉄の燃料としてよつと活動する同町大宮地区で生産された良質な「大宮炭焼き同好会」の「大宮炭」を復活させ「古都純孝会長、10人」が、神戸市の「豆製造・販売の老舗「萩原珈琲」と木炭の取引契約を結んだ。会員らは21日、初荷を送り出した。

明治一正時代に「印賀鋼」でも名を挙げた「大宮炭」は、たたら製鉄と石油燃料の普及で昭和30年代に途絶えた。

同好会は2015年、地域住民の有志が結成。当時を知る住民の助言などを頼りに旧大宮小の運動場に窯を造り、試行錯誤を繰り返した。18年から徐々に品質が安定し、現在は県内のレ

日本海新聞 2020年5月22日掲載



炭火焙煎窯で燃える炭（萩原珈琲）
（上の写真提供：西村幸治さん）
（下の写真提供：萩原珈琲）

ジャー施設などに木炭を納入している。

萩原珈琲は1928年に創業し、日本で最初に「豆」を炭火焙煎した。社長夫人の萩原千尋専務が日南町出身だった縁もあり、3月に町が同好会の木炭を

紹介。火持ちのいい品質が評価され、焙煎工程で使い分けられる3種類の木炭の一つに採用された。

この日は、会員らが同町の「大宮地域振興センター」で初荷となる140kgの炭を箱詰めし、町役場に

運搬。夕方、宅配業者に引き取られた。古都会長（75）は「冬にかまどから立ち上る煙を見て住民が『懐かし』と言ってくれる。周囲の方の支えがあってこまで続けられたと感謝した。」（本高屋修）

「大宮炭」萩原珈琲（神戸）に供給

たたら製鉄で栄えた日南町大宮地区の住民グループが復活させた「幻の大宮炭」が、炭火焙煎コーヒーで有名な創業92年の老舗、萩原珈琲（神戸市灘区、萩原孝治郎社長）に供給されることになった。輸入に頼っていた木炭の国産化にかじを切る同社が、白羽の矢を立てた。21日、初荷の約140kgを神戸市内の焙煎工場へ発送した日南町は、近く双方で協定を結び、大宮炭のブランド化を目指す。（山根行雄）

日南・炭焼き同好会



萩原珈琲の炭火焙煎工場に向け、発送準備に追われる大宮炭焼き同好会メンバー

香りとコク：焙煎に適す

大正期まで古銅製鉄所が操業していた大宮地区は、名刀の数々を世に出した印賀鋼の里。鋼産出を下支えした木炭産業は戦後も続き、50年代の年間生産量は6万俵（炭1俵約15kg）にも及んだが、燃料革命を機に衰退し消滅した。

火持ちの良さに秀でた大宮炭復活は、4年前に地元有志11人で発足した「大宮炭焼き同好会」（古都純孝代表）が模索。旧小学校校

庭跡に昔ながらの黒炭窯を作り、試行錯誤の末にナラを使った幻の炭の生産に乗り出した。

今回の供給は、コーヒー豆をいる炭火の国産化を打ち出した4代目の萩原英治・同社代表取締役マネージャが今春、母親の千尋専務の出身地である同町に打診して実現。関係者によると、大宮炭は炭火から発生する遠赤外線などの効果で豆が内部から加熱され、独特の

香りとコクを引き出す焙煎に適し、外国産の備長炭との併用が可能という。

21日は同町印賀の作業所で同好会員が発送準備を行い、一定の長さに切った大宮炭を箱詰め。町農林課が宮炭を箱詰め。町農林課が用意した「新型コロナウイルス」を発信したいと意気込んだ。

氏が珈琲焙煎師として創業。炭火焙煎を生み出したことで知られる。販売先は有名珈琲専門店、喫茶店、レストランなど全国で約1千店舗。

大宮炭復活のさきがけに!!

山陰中央新報 2020年5月23日掲載

令和2年4月3日、中村英明日南町長と農林課荒金太郎さん、そして、西村幸治事務長の3人は、神戸市灘区にある創業92年のコーヒー豆の老舗「萩原珈琲（株）」と商談をしました。

「炭火焙煎こそが萩原珈琲」というコンセプトで手間をかけたおいしい珈琲を作っている老舗珈琲店。時代に流されず、流行に惑わされない独自の味にこだわり、炭火焙煎を貫いておられます。

そんな老舗の萩原珈琲とこのたび契約が交わされました。今まで外国産の炭だけで、焙煎しておられたが、大宮炭とのブレンドで焙煎するそうです。

萩原珈琲（株）のコーヒーは北は北海道から南は九州沖縄まで、日南町内でも販売しています。道の駅

「にちなん日野川の郷」の「日南トマト加工（株）」で豆はもちろん、コーヒーも飲めます。

なお、「萩原珈琲」について詳しく知りたい方は、ホームページ <http://www.hagihara-coffee.com/> をご覧ください。なお、社長夫人であり専務の萩原千尋さんは、日南町新屋のご出身です。

このたびは、5月21日に、140kgの大宮炭を出荷しました。まだまだたくさんの炭を焼くことができないのですが、こうした炭の需要にこたえて、ますます木炭生産に力をいれたいものです。大量生産は難しいのですが、コツコツと大宮炭を生産し続けている「大宮炭焼き同好会」にとっては、大宮炭復活の願いが少しずつ叶ってきたようです。

「徐々にではあるが、炭を求めて購入したいという人たちは増えています。炭のニーズはあり、作れば売れる状況にはあります。雑木山はあっても、同好会の会員だけの力で木炭用の木の切り出しをするのに課題を感じています。また、今後は、新しい炭窯を新設することが必要だと考えています。炭づくりのノウハウは若手に引き継がれつつあり、本格的に取り組む時期に来ていると感じています。」と、炭焼き同好会の販売を担当しておられる西村幸治さんは熱く語ってくれました。印賀鋼と大宮炭は、大宮の宝物です。